

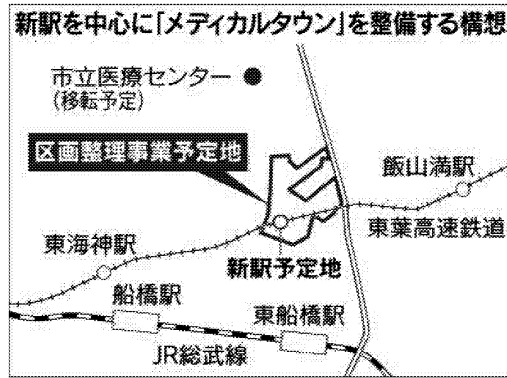
船橋市に新駅 計画始動

千葉県船橋市で東葉高速鉄道の新駅計画が始動する。市内の東海神駅と飯山満駅の間の新駅を設けるよう市などがはたらきかけ、周辺の計42軒を区画整理して街をつくる。市立医療センターを新駅近くに移し、健康と医療をテーマにした「メディカルタウン」とする構想だ。交通利便性を生かして住宅や商業機能も備え、子育て世代を呼び込む。

区画整理事業予定地の仮同意を得て、20年度に新駅設置は区画整理事業地権者約270人は18都市計画決定と事業認可業と一体で進める。メデイカルタウンの概算、イカルタウンの中核となる市立医療センターの利便性向上に効果が高いと見込むからだ。



新駅は東海神と飯山満の間に設ける計画（船橋市）



東葉高速鉄道 東海神—飯山満駅間

医療センターを移転 健康と医療の街に

医療センターは船橋市は別に大部分を市が負担を含む東葛南部を医療圏とする方針。新駅周辺に誘導し、高度な救命救急が致する企業などにも負担を求めるかどうかは今後備える。1983年に開業し、老朽化に伴う建て替えが必要な時期に差し掛かっている。現在はJR船橋駅からバスで20分の場所にあるため新駅近くに移転し、2023年度末の開業を予定する。東葉高速鉄道は千葉県や船橋市などが出資する第三セクター。同社は新駅設置について「市と協議を進めながら検討した」と説明する。東葉高速が市に提示した概算事業費は約50億円。区画整理事業と海老川上流地区は緑豊かな景観が残っている。メディカルタウン内には耕地や耕作放棄地が増加し、小規模な宅地や墓地在。ちくほくな街づくりが地域の発展を妨げかねないとして、市が2015年にメディカルタウン構想を打ち出し、再び計画が動き出した。



メディカルタウン構想を打ち出した船橋市の松戸徹市長は「写真」に事業の経緯や狙いを聞いた。――構想が浮上したきっかけは。「市立医療センターの移転新設と海老川上流地区の

「自然生かし新しい街を」 松戸徹市長

区画整理事業を進めるスケジュールと理念が合致した。これからの時代のキーワードとなる医療と健康寿命がコンセプトの新しい街を作りたいと考えた。――区画整理地区内に備える機能は。「住居や商業施設に加え、健康をテーマにした飲食店や医療系専門学校の誘致も検討する。自然環境を生かして散歩したくなる街並みを整えたい」

新駅を設置する理由。橋市は都市農業が盛んで、体力のある農家が宅地化を見送ってきた名残でもある。――住宅地でターゲットとする世代は。「そろそろ家を買おうか」という子育て世代が中心になる。高齢者のためでなく、幅広い世代を呼び込める地域にして活気のある街を作りたい」

「聞き手は児玉章吾」